

## 第 13 期生 卒業エッセイ

### 私にとってのレインメーカー

第 13 期 福嶋 啓悟

本記事では、「レインメーカーおよび雨について」、「小野ゼミでの成長を自覚するタイミング」、および「新社会人になるにあたっての抱負」というトピックで執筆していきます。

まず、レインメーカーとは、その名のとおり「雨を降らせる人」という意味です（最近のプロレスに詳しい人ならピンとくる人も多いでしょう）。なぜ、いきなりこのような言葉を出したのかといいますと、小野ゼミは私の人生にとって、「恵みの雨」を降らせてくれたレインメーカーだったからです。入ゼミ当初から（恥ずかしながら今もですが）不甲斐ない私に対して、懇切丁寧、温かく、ときには厳しく接して下さった小野先生を始めとする皆様のおかげで、心身ともに大きく成長できたと自負しています。私が成長できる土壌を整え、種を蒔いてくださったのおかげで、人生の中で一番成長した2年間を送ることができた、そのような意味で小野ゼミは私にとってのレインメーカーです。

次に、小野ゼミでの成長を自覚するタイミングについてですが、3年次の取り組みによる成長を自覚できるのは少々時間が経ってからだというのが私の持論です。三田論に取り組んだ後も神戸マケコンに出場した後も、なかなか自分の成長を感じることができず、「小野ゼミで1年頑張った成果はあったのか？」と少々不安になっていました。そんな私が小野ゼミの活動によって、自分は成長したのではないかと自覚した初めての機会は、4年生になり、就職活動に取り組み始めたときです。小野ゼミに所属する前の私は、「ある状況においてどのような考え方をすべきか」、「自分の考えをどのように相手に伝えればよいか」、および「どのように伝えれば相手と自分が Win-Win になることができるか」という視点が欠けていました。しかし、3年次に取り組んだ活動から、「このように自分のことを話せば、面接官に響く PR ができるのではないかと考えることができ、そのおかげでうまく就職活動を行うことができました。このとき、ようやく私は自分の成長を自覚することができました。自分が成長したことを自覚できるようになるには時間が必要なので、第14期生は1年間取り組みによって自分は確実に成長しているという自信を持って、就職活動や卒論執筆に取り組んで欲しいと思います。

最後に、新社会人になるにあたっての抱負ですが、今現在の私の抱負は、入社先にとってのレインメーカーになることです。私にとってのレインメーカーである小野ゼミは、「恵みの雨」を降らせてくれたわけですが、私は、「金の雨」を降らせるレインメーカーになろうと思います。4月から入社した私が、どのようにレインメーカーになっていくかは、来年度以降の OB・OG 会誌エッセイで書こうと思います。